

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名

社会福祉法人 会津若松市社会福祉協議会
グループホーム みなづる

(ユニット名)

記入者(管理者)
氏名

佐藤 光彦

評価完了日

平成19年10月29日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度から今までの4つの理念を見直し「地域の中で自分らしく生活できる介護」を加え、地域密着型サービスとしての内容を盛り込みながら、この河東地区での生活を支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家族、職員の目の届きやすい所（玄関、食堂、事務室、廊下）に掲示し、職員間では月初め、職員会議に理念を唱和し理解している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会、家族会、運営推進会議や広報誌を使い家族、地域の方々（区長、近所、お世話になっている商店等）に説明をして取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時の挨拶は勿論の事、近所へ広報誌を配りながら、お茶飲み、芋煮会などに来て頂けるようにお誘いしている。	○ お誘いはしているが、なかなか立ち寄ってくれる人は少ない、今後もより一層の努力して行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校、幼稚園の行事参加。社会福祉協議会内の地域の方々による除草作業などにも参加し交流を深め、また、河東地区敬老会参加、老人クラブの方によるソバ会慰問と、地域高齢者とも交流を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者が認知症キャラバンメイト養成研修、認知症予防ファシリテーター研修を受け認知症講演会講師を行い地域高齢者とも話す機会を設け、積極的に取り組んでいる。また、地域の小学生、高校生を受け入れて取り組んでいる。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は日々の朝礼、職員会議、ケアカンファレンスの中で職員に結果や意義、目的を伝え、前回の評価で指導頂いた内容を改善しながらサービスが向上するように取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の利用状況、行事、広報、防災訓練、衛生管理の状況を2ヵ月に1回ずつ報告し、運営推進会議のメンバーからは活発に意見（会議録を評価日に開示します。）が出されている。意見は利用者へのサービス（処遇）向上、職員の職場環境改善に参考としている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>平成19年度よりはみなづるデイサービスも立ち上げ会津若松市介護保険担当者と常時連携を図った。また、栄養教室開催には市の管理栄養士に講師を依頼し利用者と共に参加して頂いている。地域での夏祭りも市役所の方と共に参加している。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域ケア会議に参加し地域福祉権利擁護制度等について学ぶ機会を持ち、地域包括支援センターと相談しながら、必要な方には活用できるよう実施している。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>地域包括支援センター職員を講師とし虐待防止についての理解ができるよう管理者、介護職員共に勉強会を開いている。今年度は11月に開催予定である。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族、本人が納得できるようにゆっくりとわかりやすく、約2時間をとり説明、疑問、不安解消を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日のみなづる会議、運営推進会議時に意見を伺い運営に反映している。面会時に家族が意見を話しやすい雰囲気作りをしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月のみなづる通信による報告。担当職員からの手書き文書による近況報告、面会時に入居者の状態を報告し家族が不安にならないよう綿密に話し合いをしている。金銭管理は預かり金の明細書を発行し面会時に説明し署名捺印をえて行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、みなづる会議、運営推進会議等で意見や不満、苦情はないかを話せる雰囲気作りを常に心掛け対応している。家族の方からも積極的に意見が出されている。意見に対しては職員会議時家族の思いも大切にしながら検討し改善に努めている。	○ 玄関前に意見箱を設置し、無記名でも意見が出されるよう様式も工夫しながら利用者、家族、運営推進会議の委員等へ説明して即の実施したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンス、職員会議時個々の職員から話を聞く機会を設けている。その他気づいた事があればその都度話し合い運営に反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕をもった職員配置をしている。職員の公休希望も全て取り入れ急な勤務変更がないようにしている。急な休みがあった場合はその都度管理者が連絡調整を行い365日人員を確保している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限になるように法人総務部門とも話し合いを持ち配慮している。新任職員には内部新任研修を徹底し行っている。利用者へは、複数人で係わるよう実施している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には職員一人ひとりの力量も考慮しながら積極的に参加している。また、内部研修も毎月実施しながらみなづる全体がレベルアップ出来るよう実施している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に加入している管理者（10名程）の方々は、月1回みなづるへ集まり同業者と積極的に交流している。情報交換し、サービス向上に生かしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の勤務希望を100%取り入れ精神衛生面にも十分に配慮している。休憩場所も、職員がゆっくり休めるよう2階和室に冷暖房完備して配慮している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者自ら社会福祉士の受験資格を得る通信教育を受け、職員一人ひとりにも常に資格取得の必要性を話しスキルアップを行っている。また、ケアマネ受験対策講座希望者については、義務免扱いにて勉強する機会を与え、介護福祉士受験に関するみなづる内部研修も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方に畑仕事のやり方、料理の作り方、味付け等を教えて頂きながら喜怒哀楽を利用者、職員共に大切にしながらケアを行っている。	

グループホームみなづる自己評価

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の利用者の状態や様子を面会時に家族に伝え又家族からも情報を得ている。行事への参加を呼びかけ家族と利用者が一緒に過ごす時間を作り家族が利用者の状態を把握できるようにしている。受診は家族に対応して頂き、家族から受診時の情報を得ており職員と家族が共に利用者を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	馴染みの生活をして頂く為に介護計画書の内容にも家族との交流が薄れないように支援している。行事への誘い、誕生日の過ごし方も利用者、家族、職員と共に話し合い実施している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者から誰かに「会いたい」、「心配だ」との話があれば職員から連絡をとり家族や親戚、友人の方に訪問や面会が出来るよう支援している。尚、面会時は居室や談話室、2階和室でゆっくり過ごせる場所の確保もしながら、宿泊もきるよう布団の準備もしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別ケアは基本であるが、気の合う利用者同士を職員が見極め、散歩、買い物、食事、余暇活動等を通し孤立しないよう楽しく生活している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も利用者の家族宅へ訪問するなど交流を行っている。また、家族の方からも「みなづるのみなさんは元気ですか」と電話を頂き互いに情報交換をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
男			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族、職員とケアカンファレンスを行い要望を引き出している。また、把握する手段の一つとして認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式シートを活用し本人の思いを職員が共有している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式シートを活用し本人、家族、親戚、ケアマネジャーから聞き取りを行い、今まで生活してきた環境を考慮している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	見守り介護を理念としており、出来る事、出来ない事を十分職員が把握しながら対応している。把握する手段の一つとして認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式シートを使用し何が原因かを追及し本人らしく生活出来るよう支援している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族へ毎回アセスメントを行い計画作成担当者ひとりで立案するのではなく、担当介護職員にも計画作成を行ってもらい画一的な計画にならないようみなづるチームケアの実現に向け実施している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な計画書の見直し、立案を行い、その際は利用者や家族の意見を聞いて行い、状態の変化が起きた場合は即家族、担当介護職員と話し合いを持ち意見を聞いて状態に合った計画書を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、記録担当職員を配置し一日の入居者の様子を介護経過記録に記載するとともに、特変事項は業務日誌特記事項へも記載して全職員に周知徹底を図っている。計画作成担当者は別に介護支援経過記録書も作成、記載している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校とは授業参観や慰問の協力。民生委員とは運営推進会議、地域ケア会議、外出行事で協力。消防とは毎月1回の防災訓練の協力。警察とは施設周辺の防犯、保護された高齢者がいた場合の連絡。地区公民館とは催し物の参加などの協力。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の担当介護支援専門員とは医療を要する事故、入院等が起きた際は即、連携を図っている。また、近隣の理美容店については認知症を理解して頂き利用者の円滑な受け入れ体制を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議の委員、入居判定委員会の委員、管理者は地域ケア会議の委員となり常に連携を図っている。地域福祉権利擁護事業が必要と思われる利用者がいた際は、管理者、家族、本人と相談に伺った経緯もある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対し、全ての情報（介護計画書、介護経過記録、ケース記録）を詳しく伝え今までの生活が継続、配慮して頂けるよう情報提供を行い退所後についてもみなづるへの訪問をしたりと交流を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄、入浴の誘いはさりげなく行い誘導している。整容介助も自室の洗面所で行っておりプライバシーに十分配慮している。記録物は2階の書庫にしまい鍵をかけしっかりと保管している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は個々の性格や身体的な状態、認知症の状態等を含め残存機能を熟知し、その方に合ったペースで常に自己決定が行えるようにしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者が主人公であり、散歩に出掛けたい姿や炊事、畑に行く姿が見られた時等は即座に職員間で業務を調整し利用者の気持ちに応える対応をしている。		
.			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	管理者が近隣の理美容店へ出向き認知症の説明を行い理解して頂き個々の希望する理美容店の円滑な受け入れ体制を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事作りの力を発揮できる場面を職員は常に見極め、かつ場面を提供しており、介護計画書にも立案しながらとりにくんでいる。職員も朝、昼、晩利用者と共に食卓を囲んでいる。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは本人の希望通り出してはいるがライター管理は職員が行い、喫煙所は事務所内とし職員が見守る状態で行っている。お酒は主に夕食時、他には行事のあった日に提供している。他については夕食後に利用者全員と献立を決め要望を伺い、買い物時にも個々の嗜好に日々対応している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターン、排泄前行動を全職員で把握しながら失禁、放尿があった場合もさりげなく誘導している。また、極力おむつの使用をしないよう家族とも話し合いを持ちながら行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中、夕方好きな時間に好きなだけ入浴して頂いている。ゆず湯や菖蒲湯を実施し、四季を感じて入浴が楽しめるようにしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣、能力に配慮し日中は畑作業、散歩、買い物、食事の準備等の活動を一生懸命行えるよう対応し、夜は安眠できるよう支援している。昼食後1時間程度の昼寝時間を設けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式シートを活用し本人や家族の方から得意なことや趣味等を伺い、畑仕事や食事作り、掃除、買い物、散歩、行事(ふるさと訪問)参加等の場面を提供している。また、ケース記録や経過記録の情報をもとに継続した活躍の場を広げていけるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>本人の能力を考慮し家族と話し合いを持ちながら出来るだけ金銭（通帳、印鑑）を持てるよう話し合いを常に行っている。お小遣いを使い買い物をする際などの支払いは本人に行きながら職員は近くで見守っている。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>食事の買い物は日曜日以外毎日行い週1、2回は外出が出来る。その他菜園、床屋、散歩、誕生日の外出、月に1回外出行事を組み常に外出の機会がある。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>年に1度の日帰り旅行、今まで住んでいた自宅へのふる里訪問ツアーなども行事に入れ利用者の希望を聞きながら行事委員会も毎月開催している。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>暑中見舞い、年賀葉書の作成も行事の中に取り入れ家族、兄弟、知人等へ葉書を出す事が出来る体制も整っている。電話については家族、知人へ自由に出来るよう重要事項説明書へも明確に記載している。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>面会時は居室や談話室、2階和室でゆっくり過ごせる場所の確保もしながら、家族がいつでも宿泊できるように布団も準備している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については勉強会を行い職員全体が「身体拘束をしないケアの実践」を理解している。身体拘束は行っていない。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族にはケアカンファレンス、面会時にその都度利用者個々の起こり得るリスクについては常時説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェック、年に1回の定期健康診断、定期受診を行い状態の変化の早期発見に努めている。異常が見られたら管理者に報告し職員間で共有する。悪化しないように早急に受診をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容表を作成し、かかりつけ薬剤師とも連携を図りながら把握出来るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	きのこや野菜を多く取り入れてた食事内容にしている。水分補給時には飲むヨーグルト、おやつには菜園で取れたサツマイモ等も食している。みなづる体操と階段昇降も行い便秘予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食後は声掛けで対応し昼食後、夕食後については、職員も関わり徹底をした口腔ケアを行っている。義歯の洗浄は夜帯でポリデントを使用し清潔の保持をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は本人、家族と話し合いながら対応している。時間は制限せずに個々のペースで食べている。食事摂取量が減少してきた方については、個々のケース記録に記載しながら体重測定をし様子観察を行いエンシュアリキッドも活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	衛生管理マニュアル、ノロウイルスマニュアル、O157マニュアルを作成しそれに基づき行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食卓衛生管理委員会を設置し調理用具の消毒や冷蔵庫内清掃、シンクまわり清掃を毎日実施している。毎日買い物に行き新鮮な食材を使用し、食事の準備は食事時間の1時間前から行っており常に新鮮なものを出している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や木の植物を建物周辺に植え、玄関の前には菜園をつくり普通の家庭のような環境となっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のグループホームであり普通の自宅と同じ生活空間となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前、廊下の奥にテーブル、椅子を置き活用している。又、談話室、食堂にテレビやCDを置き歌を聴きながら利用者同士楽しく過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居する前に使用していたタンスや布団、テー ブル、仏壇、遺影を持参し生活している。しかし今 のままが良いと言われる方についてはあえて無理 に行わないようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	掃除の時に換気を行っている。その他に空気清浄 機を2台設置し冬期間は洗濯物を室内に干すなど の湿度調整にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、各所に手 摺りを設置するなどして工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレの目印、居室の入口へは個々利用者と職員 で手作りにて作成をした貼り絵を設置するなどの 工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	みなづるの前には畑、庭があり緑に触れあえるよ うにしている。また、椅子、テーブルを用意して 晴れた日には外でおやつを食べたりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない ⑤その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者一人ひとりが生き生きと笑顔ある生活を全職員と共に取組み、職員も職場環境の大切さを心に置き職員間でのもめ事も一切ない。職員の笑顔こそが入居者に良いサービス（もてなし）が出来ると考え日々の生活をしている。
- ・一日何度も外出（散歩、買い物）の機会を作っている。出来る限りスピーチロックすることなく付き添っている。
- ・みなづる菜園で出来た作物で料理の工夫をしながら職員と利用者みんなで食事をしている。
- ・月一回は、バスに乗った行事を取り入れみなづるだけの生活でなく通常の家と同じように生活できるよう対応しながら町に出での食事（外食）も定期的に行っている。
- ・河東地区の方々、毎月会津地区の管理者会議開催時などいつでも気軽にお越し頂けるグループホームみなづるを作り上げている。